ほけんだより 9月号

令和２年９月吉日
もりのなかま保育園
病児・病後児保育室
☎：098-935-5327

まだまだ残暑は続きますが、朝晩は過ごしやすい日も増えてきました。
夏の疲れが出やすくなる時期なので、気温の変化で体調を崩さないよう気を付けましょう。
9月9日は救急の日です。今回は、子どものけがで多い肘内障についてお伝えします。

肘内障について

肘内症とは肘の関節の亜脱臼で、よく「肘が抜けた状態」と言います。
小さな子供は、肘関節の組み合っている骨の部分がまだ細く、ちょっとしたはずみで抜けやすいために肘内障が起こります。

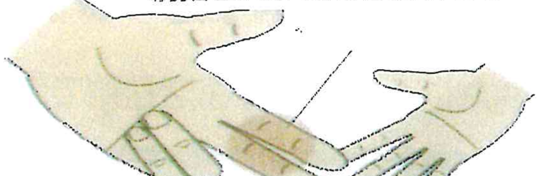
肘内障を招く「手のつなぎ方」に注意

×

肘内障は、子どもの意図に反して、大人が強く腕を引っ張ったときに起こりやすいもの。イラストのように、子どもの手を外側からつかんで引っ張るのは、肘内障を招くおそれがあるのでやめましょう。必ず、子どもと手のひらを合わせてつなぎ、子どもが握り返すのを確認します。

○

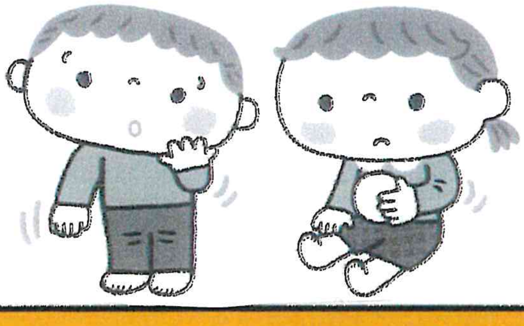
親指と人さし指を握らせる



発見するコツ

● いつもと違う腕の使い方に注意

肘内障が起こると、ひじを曲げられません。腕をだらんと下げたままにしたり、その腕を動かすのを嫌がって片方の手だけを使ってあそんだりするようになります。



肘内症かな?と思ったら

● 痛まないように気をつけて、受診する

腕を動かすと痛みが出るので、本人が痛がらない姿勢のまま固定します。その後、整形外科を受診します。